先端研究基盤共用促進事業（コアファシリティ構築支援プログラム）
中間評価結果

機関名	山口大学
事業概要	本事業において、①学長直下に財務・人事・研究担当理事を中心とした「コアファシリティ全学協働体制」を構築し、トップダウンによるマネジメントを行う。②全学の技術職員を集約・組織化し、「総合技術部」を新設する。③既存の機器共用体制の長所を残しつつ、時代の変化に対応したスクラップ＆ビルドによる組織・体制の見直しを継続的に実施する。 また、この取組を地域の大学の分散キャンパスの先進的なモデルとして、全国にアピールできるよう、「山口大学方式」の特色を分かりやすく打ち出した形で事業を実施する。加えて、中国地区のモデルとして、中国地方バイオネットワークへの成果の発信と普及を行う。
評定（総合評価）	コメント
A	・ 地域大学の研究基盤を強化し、研究力向上に資する研究環境を実現し得る一つの先駆的モデルを提示している。 ・ 統括部局として学長直下のセンターを設置し、リーダーシップの下で技術職員の人事制度改革を実現するなど、取組全体として当初の計画を上回る成果を創出しており、今後も発展が期待できる。
評定（個別評価）	
① 進捗状況	コメント
a	・ 人事・財務一体で学長直下にリサーチファシリティマネジメントセンターを設置し、コアファシリティ化を強力に推進するとともに、事業の着実な進捗に向けた事業管理を適切に行っている。 ・ 独自の共用化指標を構築し、二重導入の防止などの適切な運用を図りつつ、全学的な共用システムの構築・運用につなげている。
② 経営戦略	コメント
a	・ 大学経営層による、組織を超えた強力なマネジメント体制を確立し、機関全体として戦略的に取り組んでいる。 ・ 技術職員の一括組織化、キャリアパス構築、共用機器の戦略的整備、自己財源確保に向けた施策など優れた取組が見られる。 ・ 統括本部の運営委員会で研究基盤運営上の課題や要望が出され、対応課題として解決が図られているが、よりスピード感があると良い。

③ 実施体制・仕組み	コメント
a	・ 統括部局が学長直下に設置され、学長・副学長のリーダーシップの下で全学的な体制が構築されている。 ・ 人事労務担当・財務施設担当理事を副センター長として配置するなど、財務、人事部門との連携も確立されている。 ・ 全学的な運用ルール、利用料金体系について検討が進められており、引き続き具体の整備を進めていくとこが期待される。
④ 人材育成	コメント
a	・ リサーチファシリティマネジメントセンターに、技術職員の管理運営及びキャリアパスマネジメントを一元化し、効果を上げている。 ・ 管理職又は高度専門職を目指すダブルトラック制度を導入し、総合的な支援プログラムや人事評価体制が構築されている。
⑤ 資金計画	コメント
a	・ 共用機器の導入・更新・保守等について、利用料収入に加えて学内財源を安定的に措置することで、計画的な執行を可能としている。 ・ 事業で雇用した技術職員が、学内予算を活用したテニュアトラック制度により継続的な雇用が計画されている。 ・ 利用料収入が大きく伸びており、企業も含めた外部資金取得の更なる進展を期待する。目標設定は挑戦的であるが、適宜見直しも考えられる。
⑥ その他の政策との連携	コメント
a	・ 既存の機器利用体制のスクラップアンドビルドを進め組織改革を進めている。 ・ 研究機器利用サポート制度を実施し、分野融合、新領域拡大、産学官連携、スタートアップ支援などを進めており、今後の成果創出に期待したい。
⑦ 外部連携、国際化	コメント
a	・ 事業による取組を、地域の大学の研究基盤整備の先導的なものとして他の機関に共有・周知を図っている。 ・ 技術職員の質の向上のために東工大の「TC カレッジ」と協働することで、他大学の技術職員の能力向上に資する取組を進めている。 ・ 山口県内のネットワークを通じた解析依頼や、中国地方バイオネットワークとの連携や融合の検討も進めており、更なる推進を期待する。
備考	なし